

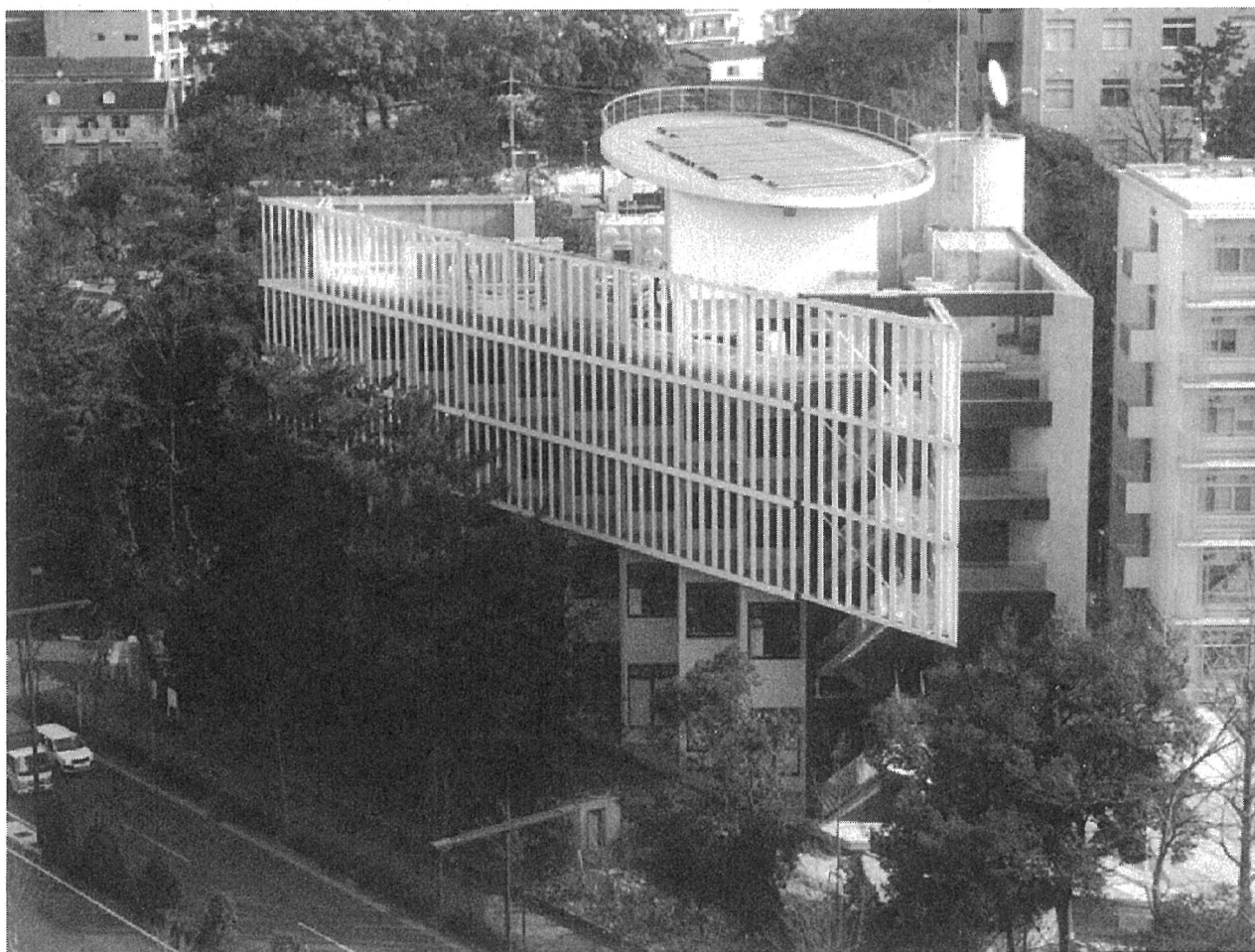
NEWSLETTER

Vol. 26 No. 1
May 10, 2014

公益社団法人

ISSN 0919-5319

日本地震学会ニュースレター



<表紙の説明>

名古屋大学「減災館」

巨大地震の災害軽減には、総力を結集し本気で備えるしかない。そのためには、人を繋ぐ、地域を繋ぐ、産官学民を繋ぐ、学問を繋ぐ、知識を実践に繋ぐ、ひと・こと・ものを繋ぐ、などの活動が鍵を握る。名古屋大学「減災館」は、その活動拠点であり、減災研究の拠点、災害対応の拠点、備えの拠点の3つの役割を担っている。

3～4階は産官学の研究者が連携し減災研究を実践する場である。耐震技術開発の実践の場として、建物全体を揺する仕掛けやモニタリングシステムなども完備している。また、災害発生時の対応のため、高性能免震システムに加え、発電、給水、通信の災害対応システムや、備蓄品を備え、地域や大学の災害対応拠点の役割を担っている。さらに1～2階は広く市民に開放し、啓発・育成・連携の場とした。種々の教材を展示した減災ギャラリー、市民向け勉強会を行う減災ホール、調べ学習をする減災ライブラリーなどがある。

是非、お出かけ下さい。

(減災館のヒミツ：http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?page_id=2427)

(名古屋大学減災連携研究センター 福和伸夫)